



どこでも
てくてく



プロジェクトゆうあい 10年の軌跡

[2004-2014]

私たちは、障がい者、健常者のへだてのない
誰もが自立して豊かに暮らすことができる
新しい社会の仕組みづくりに取り組んでいます。

プロジェクト
い ゆうあい

このまちに希望の種をまいていく

プロジェクトゆうあいの10年をふりかえる



三輪利春 プロジェクトゆうあい理事長

特定非営利活動法人プロジェクトゆうあいは、2004年 7月に島根の高度情報化を推進する情報化ボランティアグループ「プロジェクト 23」とバリアフリーのまちづくりを推進する「島根ユニバーサルデザイン研究会」の有志により、が設立された法人です。「ゆうあい」はアルファベットのUを仮名文字にしたもので、ユニバーサルデザイン Universal designの「U」、IT (インフォメーション・テクノロジー)の「I」を取り命名しています。正直なところ、法人の設立当初は十分に先も見えず不安も多く抱えていたが、ひとつずつ目の前にある社会の課題を解決していく事業に取り組みむ中、皆様

からの信頼を積み上げ、この10年を迎えることができました。

私自身は、30代半ばで交通事故にあい全盲となりました。当初は失意の日々を過ごしましたが、盲導犬(写真は3頭目のノアくん)やパソコンとの出会いを通じて少しずつ社会の扉を開くようになりました。そして様々な人との出会いがあり、この法人の設立、代表となりました。自分の経験がプロジェクトゆうあいという法人を通じて、世の中に還元できればこれ以上のことはないと思っています。

私たちの活動は「ひとづくり」から「まちづくり」へとつながり、やがてはノーマライゼーション社会へと広がる活動であると信じています。「このまちに希望の種をまいていく」をスローガンに、これからも希望を持ち、皆で歩き続けていきたいと考えています。



田中隆一 プロジェクトゆうあい理事/事務局長

私自身は横浜が出身で、大学の建築学科を卒業ののち30歳まで東京を拠点に仕事をしてきました。当時まちづくりコンサルタント会社の社員として全国各地の仕事をする中、その年にたまたま松江市のまちづくりに携わるようになりました。その仕事がきっかけとなり松江に居を移し、6年後にNPO法人プロジェクトゆうあいを仲間とともに立ち上げることになりました。当初はコンサルタント会社と二足のわらじでしたが、年を追うごとにゆうあいの事業に関わる比重が高くなり、4年目にはゆうあい一本で働いていくことに覚悟を決めました。そして7年目には北堀町に移転して、放課後等デイサー

ビス、障がい者就労支援事業を開始したことが法人としての大きな転換点となりました。研究開発、そして請負型の仕事から直接的に人を支援する仕事へと法人の事業形態を大きく転換したのです。北堀移転後には、さらに放課後等デイの拠点が2か所、就労支援の拠点が2か所増え、あわせてスタッフの人数も飛躍的に増加することになりました。このような展開を可能にしたのは、法人設立からの取り組みすべての賜りものと思っています。これまでプロジェクトゆうあいの事業に関っていただいた皆さまに心から感謝いたします。最後に、顔写真と一緒に写っている我が家の4男、ダウン症の大智(たいち)くん。プロジェクトゆうあいの放課後等デイサービス「キッズスペースゆうあい」ではみんなの人気者ですが、実はプロジェクト躍進の立役者かもしれませんね。

プロジェクトゆうあい設立10年によせて



近藤豊彦 NPO 法人マイライフ・ステーション協会 理事長

プロジェクトゆうあい10周年、誠におめでとうございます。

わずかの間に日本を代表するNPO法人に成長されました。三輪理事長、田中事務局長はじめ、ゆうあいを支える関係者の皆様に心より拍手をお送りいたします。

障がいがあっても、こころ豊かに尊厳をもって自立した生活を営む。楽しいことを喜び、悲しいことは仲間と分かち合って悲しみを和らげていく、そういう地域社会を確立すること、これこそが福祉が目指すべき課題だと考えております。

施設を運営する者がこころして置くことがあります。一人ひとりの個人と福祉制度や法律という強固なシステムとの対立です。作家の村上春樹が、エルサレム賞の授与式の挨拶で「卵と壁」にたとえ、「私たちはみな、形のある生きた魂を持っています。システムにはそんなものはありません」と語った。

プロジェクトゆうあいの利用者一人ひとりの事情を最優先して、日本一の福祉サービスをさらに進めていただくことを、こころより期待いたします。



吉山治 松江市副市長

障がい者の社会参画を進め、人にやさしいまちづくりを進めることを目的に設立されたNPO法人「プロジェクトゆうあい」がこの度、10周年の節目の年を迎えられたことに対し、心よりお祝い申し上げます。

NPO制度自体が比較的新しい仕組みであり、10年という時間の流れの中では、三輪利春代表はじめ事務局の皆様のご試行錯誤の様々なご苦労があったことと思えます。これまでの観光バリアフリー推進の取り組みや、すっかり定着した感のあるバスマップ事業、視覚・聴覚障がいに関わる情報支援、障がい児の見守り・療育など社会の課題解決に民間の知恵と工夫、機動力を生かして取り組んでおられることに改めて敬意を表したいと思えます。

また、その活動は「継続は力なり」という言葉がありますが、NPOの存在価値を社会に認識させる意義もあったのでは考えています。

松江市では、「共創のまちづくり」に取り組んでいます。共創のまちづくりとは、行政と市民が、双方の立場、強み・弱みを十分理解、尊重し、相互の信頼関係を基本に、共通の目標に向かって、真摯に取り組むことで、これまでは「協働」と言われてきたものと基本的には同じです。松江市の「共創のまちづくり」は「協働」をもう一歩進めて、①職員が自らも市民の目線を持って、積極的に現場に入っていき、②財政の厳しい時代にあっても、知恵と工夫をしぼりだす「逆転の発想」によって新たな展開を図る、③常に10年、20年先のまちづくりを見据えながら、物事をじっくり、最後まで責任を持つ気概を持つ、といったことが特徴と言えらると思えます。

「共創のまちづくり」のパートナーとして、ともに全国に誇れる松江のまちを築いていきたいと思えます。今後の益々の発展を祈念してお祝いの言葉といたします。

プロジェクトゆうあい2004年～2014年

	主なプロジェクト	法人の動き	スタッフ
2004年	<ul style="list-style-type: none"> ●どこでもバスブック松江版の制作発行、バスネット運用を「まちかど研究室」から引き継ぐ。以降2014年度まで継続して発行 ●松江のバリアフリーマップ「てくてくマップ・ブック」制作（～現在） 	<ul style="list-style-type: none"> ●7月20日、法人を設立し白潟本町の出雲ビルに事務所を設置 	2名
2005年	<ul style="list-style-type: none"> ●「てくてくウェブ松江」の構築、運用開始（～現在） ●第3回全国バスマップサミットを松江で開催（以降も毎年継続参加） ●視覚障がい者向け触覚ディスプレイのコンテンツ開発（～2007年） ●バリアフリー啓発ビデオ「てくてく The Movie」制作（翌年2を制作） 	<ul style="list-style-type: none"> ●5月、天神町商店街の空き店舗に事務所を移転 	3名
2006年	<ul style="list-style-type: none"> ●どこでもバスネット島根旅案内を構築、運用開始（～現在） ●視覚障がい者向け触覚ディスプレイのコンテンツ・システム開発 ●どこでもバスブック島根旅案内を発行 	<ul style="list-style-type: none"> ●総務省中国総合通信局表彰 	3名
2007年	<ul style="list-style-type: none"> ●鳥取県のバリアフリー調査事業に携わる ●海士中学校改修計画ワークショップ企画運営 ●タウンプラザの運営に携わり、地域づくり応援助成事業（～09年） ●県協働事業採択によるバリアフリーインフォメーション事業 ●伊勢志摩バリアフリーツアーセンターへの視察 ●東京マラソンほか各地で「てくてくラジオ」採用（～現在） 	<ul style="list-style-type: none"> ●7月、殿町のタウンプラザしまね2階に事務所を移転 ●計画技術研究所のまちづくり事業、てくてくラジオ事業の移管をうける 	5名
2008年	<ul style="list-style-type: none"> ●障害者の旅をサポートする人的ネットワーク形成事業 ●山陰文化観光圏バスブックの制作（～2011年） ●聴覚障がい者向けの告知システムの開発、運用実験（～2010） ●安来市庁舎計画ワークショップ企画運営 ●松江市バリアフリー観光モニター事業 	<ul style="list-style-type: none"> ●内閣府バリアフリー・ユニバーサルデザイン功労者表彰 	6名
2009年	<ul style="list-style-type: none"> ●バリアフリー観光「てくてく山陰」サイトの開設、運用開始（～現在） ●松江/山陰バリアフリーツアーセンターの開設 ●国土交通省の、中国地方におけるユニバーサルツーリズム推進事業 ●武者行列の運営のサポート（～現在） ●出雲市神門通りの道づくりワークショップ（～2011） ●経済産業省の補助を受けてBDFバスプロジェクト実施 		7名
2010年	<ul style="list-style-type: none"> ●総務省地域ICT事業の採択、全国14団体とバリアフリー観光推進松江で第1回全国バリアフリー旅行推進フォーラムを開催 ●浜田市中心市街地まちづくり調査、京都市の庁舎計画ワークショップ ●発話支援ソフト「スピーチサポート」PC版、任天堂DS版開発 ●米子の福祉事業所と連携しBDFバスの運行プロジェクトを実施 ●島根NPO連絡協議会の事業で「島根NPO読本」の制作に携わる ●年賀助成を得て、山陰・山陽バリアフリー観光ガイドブック制作 	<ul style="list-style-type: none"> ●4月、殿町のカラコロ工房近くの坂本ビルに事務所を移転 	7名
2011年	<ul style="list-style-type: none"> ●「東日本大震災松江・島根支援協議会」の一員として震災支援に関わる ●障がい児の預かり事業「キッズスペースゆうあい」を開始（～現在） ●中国運輸局の委託事業「みんなで乗ろう！バス・鉄道」プロジェクト ●買い物弱者支援「ごようきぎ三河屋」プロジェクトに参画（～現在） ●マイクロソフトの助成で「中国地方観光情報デジジー」制作 	<ul style="list-style-type: none"> ●11月、北堀町、城北公民館となり3階建ビルを取得し事務所を移転 ●NPO法人日本バリアフリー観光推進機構設立に参画 	12名
2012年	<ul style="list-style-type: none"> ●障がい者就労継続支援事業A型、B型を開始（～現在） ●古本の寄付を受け入れネット販売を開始（～現在） ●県協働事業ウェブアクセシビリティ推進、セミナー開催（～現在） ●バリアフリーまち歩き情報誌「てくてく日和」創刊（～現在） ●バス停クリーンアッププロジェクト開始（～現在） ●障がい児のための「よしととひうた紙芝居&昼食会」実施（～現在） 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本モビリティマネジメント学会からバスブック等の取り組みを表彰 	42名 (13名)
2013年	<ul style="list-style-type: none"> ●古本をスーパーみしまや各店で販売開始（～現在） ●「第2キッズスペースゆうあい」を北堀町内にて開始する ●国土交通省のモデル事業に採択され、てくてくウェブ松江の大リニューアル、視覚障がい者歩行支援アプリ「てくてくナビ」の開発 ●天ぶら油を活用したバイオ再生重油プロジェクト開始（～現在） ●社会貢献基金の個人寄付を活用したバス停クリーンアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ●全国の地方新聞社が主催する、域再生大賞の中国ブロック賞を受賞 	59名 (23名)
2014年	<ul style="list-style-type: none"> ●「第3キッズスペースゆうあい」を川津町にて開始する ●若者支援事業を開始、白潟本町に古本店「本町堂」を開業 ●障がい者IT支援に関わる普及啓発事業を開始 ●社会貢献基金の個人寄付を活用したバリアフリー情報誌制作 ●障がい児のための「たのしい楽団」運営サポート 	<ul style="list-style-type: none"> ●プロジェクトゆうあい設立10周年記念パーティ 	68名 (25名)

事業分野：●障がいのある人を支える ●人にやさしいまちづくり ●情報化をすすめる
 ※スタッフ数は年度末時点の人数。臨時スタッフ除く
 ※2012～14年の（ ）数はスタッフ総数のうち、障がい者就労継続支援B型スタッフ数
 ※2014年度のスタッフ数は、8月1日時点のもの

プロジェクトゆうあいの事業全体像

障がいのある人を支える

バリアフリーのまちづくり (2004～)

- てくてくマップ／てくてくウェブ
- バリアフリー研修
- てくてくウェブ松江

放課後等デイサービス (2011～)

- 第1、第2、第3キッズスペースゆうあい運営
- 療育プログラムの提供による支援
- 年間を通じた様々なイベントの実施
- 職員への研修プログラム

松江児童発達支援連絡会

バリアフリーの観光地づくり (2007～)

- 松江／山陰バリアフリーツアーセンター
- 観光施設のバリアフリー情報発信
- 全国ネットワークによるバリアフリー観光の推進
- バリアフリーまち歩き情報誌「てくてく日和」

全国バリアフリー観光推進機構

障がい者就労継続支援事業 (2012～)

- 古本事業等を通じた仕事の機会提供
- 安定した生活サイクルづくりの支援
- 私設図書館曾田文庫との連携
- 実習、体験のプログラム

NPO だんだんネ

きょうされん島根支部

視覚障がい・聴覚障がい者の情報支援 (2004～)

- 触って伝える取り組み
- 微弱電波音声案内システム「てくてくラジオ」
- スマホ・携帯電話による歩行支援
- 音声コード・デージーデータ・拡大文字の制作
- スピーチサポートDS・テレタクト

困難を抱える若者支援事業 (2014～)

- 白湯本町の本町堂開設運営
- 若者の就労移行を支援

人にやさしいまちづくり

公共交通を使いやすくする (2004～)

- 自治体別どこでもバスブックシリーズ
- 観光地への路線バスの情報を提供する
- 楽しいバスの啓発活動
- バス停の情報を美しく、分かりやすくする
- 全国バスマップ市民団体との交流

全国バスマップサミット実行委員会

循環型社会をつくる (2009～)

- BDF バス事業
- バイオ再生重油事業
- 古本のリサイクル (U-BOOK) 事業

いちよう企画古本版売ネットワーク

まちづくり・NPOのネットワーク (2004～)

- まちづくりワークショップの企画運営
- 松江武者行列の企画運営支援
- タウンプラザしまね・中間支援組織として
- 島根 NPO 連絡協議会・松江 NPO ネットワーク
- 新しい公共づくりに関わる官民連携の取り組み

島根 NPO 連絡協議会

松江 NPO ネットワーク

ごようきき三河屋協議会

情報化をすすめる

情報化を推進する取り組み (2004～)

- インターネット安全教室
- ウェブアクセシビリティの推進
- 障がい者 IT 機器利活用の推進
- ホームページの制作
- プロジェクトゆうあいの情報発信

NPO みんなの ICT

■ 事業に関連した所属組織 法人全体としての所属組織：島根県情報産業協会／島根県技術士会／島根県建築士会／島根県中小企業家同友会

バリアフリーのまちづくり(2004年度～)

まちのバリアフリー調査を、障がいのある方とともに実施し、その情報を紙媒体、ウェブを通じて情報発信する取り組み。障がいのある方がこれらの情報を見ることで、外出しやすくなる。また、公共施設、交通事業者、宿泊施設などの職員に対してのバリアフリー接遇研修によって、ハードだけではなく、ソフト面でのバリアフリーを推進。バリアフリーの施設改修に関するアドバイスも行っている。

◎てくてくマップ／てくてくウェブ(2004年度～)

松江市内の主要な施設や、道路空間について、車いすを使用する人、視覚障がい者、聴覚障がい者の視点からバリアフリーになっている箇所、配慮されている箇所を調査し、1枚のマップに編集。プロジェクトゆうあいの基幹事業のひとつで、おおむね3年おきに再調査、編集を行い、現在は第3版。2004年度はマップの情報をより詳しくしたてくてくブックも制作。2005年度には出雲市の「てくてくマップ」の制作に携わる。



てくてくマップ松江



てくてくブック松江



多目的トイレのバリアフリー調査の様子

◎バリアフリー研修(2004年度～)

公共施設、観光施設、交通事業者などに対して、車いす使用者、視覚障がい者への研修を継続的に行っている。行政からの委託事業の一環として実施するケース、個別の事業者から依頼されて実施するケースがある。2007年には「障がいのある方へのサポートQ&A集」を制作している。



交通事業者バリアフリー研修



バリアフリー研修車いす



旅のサポートQ&A集

◎てくてくウェブ松江 (2004年度～)

てくてくマップ情報をもとに、ウェブから情報発信する「てくてくウェブ松江」を構築、運用。2012年度に松江市の補助、2013年度に国土交通省の委託を受けてリニューアルを重ね、スマートフォンのGPSに対応した上で、バリアフリー情報以外にも AEDなどの生活情報、バス停時刻情報、まち歩き観光情報などのコンテンツを充実させている。視覚障がい者向けに歩行移動を支援するコンテンツ「てくてくガイド」や、音声でも聞くことのできるバス時刻表を盛り込んでいる。



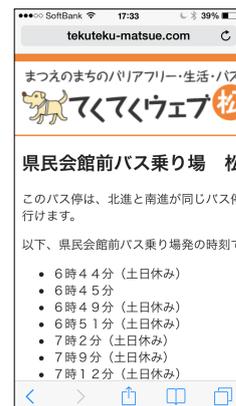
てくてくウェブ松江サイト(PC版)



スマホ版でてくてくウェブ松江



てくてくウェブまち歩き情報



視覚障がい者向けバス時刻表

■メッセージ

堀込真理子 東京都障害者IT地域支援センター事務局長

10周年、本当におめでとうございます。ゆうあい様との出会いは、20年近く前の三輪理事長とのパソコン通信に遡ります。お互いの所属などよく知らないまま、志を同じくすることだけを頼りにメールのやり取りが始まったのです。その後、時代もテクノロジーも大きく変わりましたが、三輪さんの周りには常に独創的な心ある若者が集まり、それは、地域になくはならない集団、プロジェクトゆうあいを生み出しました。

ゆうあい様の活動は、向いている方向が明確でブレていない。また、その仕事からはメッセージが伝わってくるだけでなく、ユニークな熱量も感じられます。今の時代、時間をかけて地図を描いても、描き終わった時には街は既に変更されています。こんな時だからこそ、ゆうあい様の進取の精神と高い技術のバランスが求められているのでしょう。

この先の10年もまたその先も、しまねっぺで魂で活躍くださることを切に望んでおります。そして、いつの日か、バスマップすぐろくのメンバーにわたたくしを混ぜていただけることを、これまた節に希望しております。



バリアフリーの観光地づくり(2007年度～)

松江・島根の観光地が、障がいのある人にとって旅行がしやすいよう、バリアフリーの情報提供や、旅行行程の相談を行うとともに、観光施設、宿泊施設に対してはバリアフリー研修の実施、モニタリングツアーを通じた課題の把握等を行い、障がい者の受け入れ態勢を整えている。この取り組みは、鳥取県との NPOとの連携にはじまり、全国 17 の同様の取り組みを行う団体とのネットワークづくりへと広がりを見せている。

●松江／山陰バリアフリーツアーセンター・てくてく山陰(2007年度～)

2007年にバリアフリー観光のトップを走る NPO法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンターへ視察を行ったことをきっかけに、その後松江市内の観光施設、宿泊施設等のバリアフリー調査、モニタリングツアー実施等を経て、2008年に「松江バリアフリーツアーセンター」を開設、同年に鳥取島根両県連携事業でのバリアフリー観光推進の事業を受けて「山陰バリアフリーツアーセンター」を開設し、障がいのある方の旅の相談窓口体制をつくる。松江市民向けのバリアフリー情報サイト「てくてくウェブ」に対して、旅行者の視点に立ったバリアフリー旅行情報サイトで、島根と鳥取の観光スポットの情報を充実させた「てくてく山陰」を構築、運営。2010年には年賀助成を得て、中国地方5県の主な観光スポットのバリアフリー情報を紹介する。「山陰山陽バリアフリー観光ガイドブック」冊子を発行した。



てくてく山陰サイト運用



山陰山陽バリアフリー観光ガイドブック



松江でのモニターツアーの様子

●全国ネットワークによるバリアフリー観光の推進(2010年度～)

2010年度に総務省の地域 ICT 利活用広域連携事業の採択を受けて、全国のバリアフリー観光地のネットワークづくりを進める取り組みを、NPO法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンターと連携して実施。本事業を通じて14地域の観光地バリアフリー情報を、新たに構築した「全国バリアフリー旅行情報」サイトに集約し、これまでに類を見ないバリアフリー情報サイトとして運用が開始された。2011年3月、東日本大震災の翌日に、松江にて第1回全国バリアフリー観光推進フォーラムが実施され、全国でバリアフリー観光の取り組みを行う NPO、地域団体がはじめて顔をあわせて情報交換を行った。また、これら団体を紹介する冊子「旅バリ」を制作、発行した。



全国バリアフリー旅行情報サイト



バリアフリー観光推進全国フォーラムin松江



全国団体を紹介する「旅バリ」

◎バリアフリーまち歩き情報誌「てくてく日和」(2012年度～)

松江市の補助事業を得て、2012年度に松江の観光スポットを、車いす利用者などの障がいのある方が楽しくまち歩きをしてみたいという視点で編集した冊子「てくてく日和」を発行。冊子はフリーペーパーとして、島根県内の道の駅や、山陰合同銀行の各支店、全国のバリアフリースターセンターなどを通じて配布。季刊(3ヶ月に1回)の発行として、2013年度からは範囲を全県に広げるとともに、広告収入をもとに自主事業として実施。各号で、出雲や石見銀山、隠岐などの主要観光スポットを取材対象として取り上げている。取材においては、必ず障がいのあるスタッフを同伴するか、現地の障がい者の方に協力依頼するとともに、冊子のイラストや、版下デザインにおいても障がいのあるスタッフが全面的に携わっており、障がい者による障がい者のための情報誌として、人気の冊子となっている。冊子はネット上でも見ることができ、視覚障がい者向けにテキスト情報でも紹介されている。



バリアフリーまち歩き情報誌てくてく日和



隠岐西ノ島への取材



取材の様子

■メッセージ

中村元 特定非営利活動法人日本バリアフリー観光推進機構理事長

プロジェクトゆうあいのみなさん、10周年おめでとうございます。

しかしながら、おや?まだ10年しか経ってなかったんですね。貴団体の発足当時のお付き合いが、わずか10年だったとは、どうにも思えません。それほどに、全国のバリアフリー観光界においてプロジェクトゆうあいの存在感はあり、さらに、次々と新たな課題に取り組み、成功させておられることに目を見張るばかりです。

その原動力は、プロジェクトゆうあいの目的であるノーマライゼーション社会の実現を、理事長はじめメンバーのみなさんが、自立した一人ひとりの市民として取り組んでいらっしゃるからでしょう。

市民が社会づくりに参画しているまちは未来のあるまちです。その力のまとまりであるNPOは新たな社会を創り上げます。

プロジェクトゆうあいの10年は確実に、松江市、島根県、さらに日本の社会をつくってきた10年でした。その実績を、志を同じくする仲間として誇りとすると同時に、これからのみなさんの新たな未来に大きな期待を寄せ、ますますのご発展を祈念申し上げます。



視覚障がい者・聴覚障がい者の情報支援(2004年度～)

プロジェクトゆうあいには、理事長の三輪をはじめとして視覚障がい者が3名、聴覚障がい者が1名在籍している。これらのスタッフが日々、困っていることを解決するために、様々な機器開発、ソフト開発に取り組んできた。視覚障がい者向けの「てくてくラジオ」、スマホアプリの「てくてくナビ」、聴覚障がい者向けの「スピーチサポートDS」など、いずれも松江や島根という枠を飛び越えて、全国レベルで広がりを見せている。

◎微弱電波音声案内システム「てくてくラジオ」(2004年度～)

「てくてくラジオ」は、視覚障がい者向けの微弱電波を用いた音声案内システムで、発信機に音声を録音すると、リピート再生して携帯ラジオから2～3mの範囲でその声を聞くことができるもの。2000年、鳥取市内在住の技術者である高井氏が発明したものを、(株)計画技術研究所が商品化、運用面でプロジェクトゆうあいと携わってきたが2007年にプロジェクトゆうあいへの事業譲渡を受けて、公共施設への設置や、商店街、各種イベントでの活用を進める。東京マラソン、千葉国体、国際アビリンピック静岡大会などでも活用されるなど、全国展開の商品となっている。



水木ロードでてくてくラジオを活用



東京マラソンのてくてくラジオサービス



松江駅バスターミナルのてくてくラジオ

◎触って伝える取り組み(2005年度～)

視覚障がい者が、パソコン上の電子データを選択し、その場で様々な図形や文字をさわることができることを目指し、2005年度～2007年度にかけて、東出雲町のユニプラン社が開発した触覚ディスプレイ「OUV3000」のコンテンツ開発と、ウェブを通じたコンテンツの公開に取り組んだ。三菱財団、トヨタ財団から助成を得て、1000を越えるコンテンツが制作されるとともに、コンテンツに文字情報を付加して、PCの音声読み上げができる環境を構築した。

2009年度より名刺に点字を入れる事業に取り組む、現在では行政職員さんや、地元銀行の方など、100名を越える顧客を獲得している。2014年度からは、3Dプリンタの触知図への利用について研究を行っている。



触覚ディスプレイ OUV3000



触覚ディスプレイコンテンツに音声情報を付加

点字名刺をつくりませんか？

●ちょっとバリエーションある点字名刺ってありませんか？種類に障がいのある方に喜ばれるだけでなく、好感度アップに繋がります。
●点字名刺の制作は、視覚障がいのあるスタッフなどが担当します。

まとまった枚数の点字名刺がほしいという方へ

方法その1) ご希望日にプロジェクトゆうあい職員が名刺をとりに行きます(原則滞泊の方に限定)。
方法その2) プロジェクトゆうあい事務局まで名刺を郵送するか、直接お持ちください。

■点字に表現する内容	■制作面積	■制作日数(目安)
法人名(住所等は別紙)まで	10枚	3日～7日
住所まで	50枚	7日以上(別途お見積り)

点字名刺づくり

◎スマホ・携帯電話による歩行支援(2013年度～)

2013年度に国土交通省の公募事業に採択され、視覚障がい者向けの歩行移動支援システムとしてスマートフォンのGPS機能を活用した「てくてくナビ」を開発、無料アプリとしてリリースした。目的地を入力すると、そこまでの直線距離を音声で、方向を震動で知らせる全国初のシステム。また、同事業において、松江市内の主要施設間の歩行移動情報を現地調査にもとづきテキスト化し、ウェブを通じて携帯電話、スマートフォンから音声読み上げにて、その情報を取得できる仕組み「てくてくガイド」を構築した。

◎音声コード・デージーデータ・拡大文字の制作(2009年度～)

視覚障がい者向け音声コードは、一般に用いられるQRコードよりもさらに情報密度が高い2次元バーコード規格である。2009年度より松江市広報の音声コード化を市より受託し、制作に携わった。一方、視覚障がい者の音声による情報取得手段として、カセットテープから音声CD、段落情報が組み入れられたデージー形式へと進化していく中、2010年度以降、松江市の生活便利帳、防災情報、観光情報などをデージー化する事業に取り組み、全国のバリアフリー観光の団体にも波及させた。さらに、これら媒体の拡大文字冊子の作成も行っている。



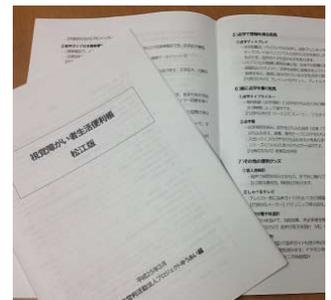
スマートフォンで「てくてくナビ」を使用する様子



てくてくナビ画面



視覚障がい者向け「てくてくガイド」



拡大文字の視覚障がい者向け生活便利帳

◎テレタクト・スピーチサポートDS(2009年度～)

聴覚障がい者向けの情報支援の取り組みとして、2008年度から2年間にわたって、独立行政法人情報通信研究機構の助成を受けてNTT社の端末を用いた「テレタクト」を開発。テレビ電話機能告知機能を持たせている。画面上でフラッシュさせるなど聴覚障がい者利用の視点を取り入れた。

2009年度から2年間にわたっては、聴覚障がい者を含む発話が困難な方を対象とした任天堂DS向けソフト「スピーチサポートDS」を財団法人テクノエイド協会の助成を得て開発。島根県内で任天堂DS向けソフトを開発したのも、任天堂としてNPOと一緒にソフト開発したのも初めてのこと。



聴覚障がい者向け告知システム「テレタクト」



スピーチサポートDS



スピーチサポートDS チラシ

放課後等デイサービス (2011年度～)

◎事業の仕組み

障害者自立支援法（現在は児童福祉法）による障がいのあるお子さんの療育を行う事業「放課後等デイサービス」を2011年11月に北堀町のゆうあいビル2階にて開始。「キッズスペースゆうあい」の名前がつけられた。学校の放課後、土曜、夏休み、冬休み、春休みに児童をお預かりする中で、様々な社会体験、学習の機会を提供するとともに、ご家族の負担軽減を図るサービスである。お子さんの障がいの種類は、発達障がい、自閉症、ダウン症、聴覚障がい、視覚障がい、肢体障がいなど様々であり、一人一人の成長、発達を促すよう、個別のプログラム、集団活動プログラムを組み立てている。概ね1名のスタッフが2人の児童を担当することを基本としており、手厚い支援体制を組んでいる。



第1キッズ外観／玄関（2階）



第1キッズ活動の様子



第2キッズ外観



第2キッズ活動の様子



第3キッズ外観



第3キッズ活動の様子

◎様々な季節イベント

日々の活動とともに重視しているのが、季節ごとのイベントである。春と秋には遠足で大山や三瓶山へ、夏には城北公民館にて「ゆうあい夏祭り」、冬には同じく公民館で「ゆうあいクリスマス会」を開催。また、ゆうあいの枠にとられず、幅広く市内の放課後等デイサービス事業所と連携した「紙芝居&昼食会」を実施したり、さまざまな楽器を自由に奏でる「たのしい楽団」の運営サポートも行っている。

■季節ごとの合同行事			
春	夏	秋	冬
バス遠足 	夏まつり バーベキュー 	バス遠足 	クリスマス 音楽会 

季節ごとの行事

◎利用の状況

事業開始当初は4名からのスタートであったが、月を追うごとに利用希望者が増え、2012年度は定員の10名をほぼ越える状態になった。そのため、ゆうあいビルから歩いて5分ほどの場所に2013年4月に第2キッズ開設。さらに、2014年3月には、西川津町に第3キッズを開設した。3つの事業所ごとに性格付けを明確にし、第1キッズは生活面での療育、第2キッズは学習面での療育、第3キッズは野外活動を主にした療育としている。2014年8月時点では3事業所あわせて52名の児童が登録、1日平均25名の児童が利用している。



キッズゆうあい夏祭り



ゆうあいクリスマス会



音楽活動の「たのしい楽団」

集団プログラムのメニュー (日替わりで毎日15分～30分程度)	第1デイ	第2デイ	第3デイ
IT学習 ・iPadの学習ゲーム ・任天堂DSを使った文字会話 ・プロジェクタを使った映像クイズ など	○	◎	◎
運動 ・マット運動、体操、平均台、トランポリン、掃除 ・リズム遊び、ボールを使った遊び	◎ 運動遊具 各種	◎ 散歩、庭で の運動	○ 散歩、庭で の運動
食育 ・ホットケーキ、ピザパンづくり ・たこ焼きづくり、そばうち など	◎	◎	—
創作活動 ・月テーマ(ひな祭りなど)の創作 ・絵画 ・習字 ・オリジナル紙芝居づくり ・紙や、粘土を使った工作	◎	◎	◎
言葉の学習 ・読み聞かせ、文字の勉強 ・英語による音楽あそび ・手話の勉強(簡単なことば、あいさつなど) ・盲導犬とのふれあい	◎	◎	◎ 手話スタ ッフ配置
所外活動 ・買い物体験、図書館での読書、公園、城山などへの散歩 ・公民館でのボランティア活動、お祭りなど	○ 主に土曜、 学校休日	○ 主に土曜、 学校休日	◎ 平日も所 外活動

集団活動のプログラム



職員合同研修

障がい者就労継続支援事業(2012年度～)

◎障がい者就労継続支援事業とは

本冊子の巻頭にメッセージをいただいている近藤豊彦氏の助言がきっかけとなり、2012年5月より北堀のゆうあいビル1階にて、障害者自立支援法による「障がい者就労継続支援事業」を開始。雇用契約のA型、利用契約のB型の2種類の事業形態とし、さまざまな障がいのある人の仕事の訓練の場であるとともに、継続して働くことで一定の収入を得られる環境を用意した。本事業の目的は、受け入れた人への生活面、作業面での支援を行い、勤務状態を適切に管理していくことにある。

◎障がいの種類はさまざま、仕事もさまざま

事業のスタート時は全体で5名であったが、その後毎月のように見学、実習体験希望者があり、2年度後の2014年5月時点では27名にまでなっている。その約半数が精神的な障害のある方、次いで肢体不自由、視覚障がい、聴覚障がい、発達障がい、内部障がいという構成で、それぞれに適した仕事を担当してもらっている。精神的な障がいのある方には古本リサイクルの仕事に、デイジーの制作は視覚障がいの方に、バリアフリーまち歩き情報誌は肢体不自由の方に、というように様々な障がい特性に応じて作業の段取りを行い、適切な場を提供している。

◎仕事のスペースを拡張する

当初、北堀のゆうあいビル1階のみが作業スペースであったが、人数が増えるに従いビルの3階に作業スペースを拡張、2012年8月には雑賀町の私設図書館「曾田文庫」と連携して、古本作業に関わる第2の拠点を設けた。さらに2014年6月からは、白濁本町のNPO法人まつえ・まちづくり塾の事務所スペースの半分を借り受け、古本店を準備。8月よりこのスペースを若者支援の場と兼ねて、第3の作業スペースとして活用開始している。

◎受け入れるまでの流れ、受け入れてから

受け入れにあたっては、原則として相談支援事業所からの紹介を受けることとしているが、ハローワークや障害者就業・生活支援センター等からの紹介を得るほか、特別支援学校とは生徒の実習受け入れ等を通じて情報交換を図っている。これらプロジェクトゆうあいでは働く障がいのあるスタッフに対しては、定期的に面談を行い、仕事面、生活面での不都合がないかモニタリングを行うとともに、勤務実績に見合った報酬の改定を行っている。また、懇親会や、食事会を定期的で開催するなど、気持ちよい人間関係で仕事ができるよう環境づくりに配慮している。

◎法人としての事業の仕組みと利益の還元

なお、法人事業としては、受け入れの人数に応じて国民健康保険団体連合会より「訓練等給付費」が法人に支払われる仕組みとなっている。一方、プロジェクトゆうあいでの仕事を通じて得た利益は、原則としてそこで働く人たちに還元する必要がある。つまり、稼げる仕事を提供できれば、それに応じた報酬を提供することができるという仕組みである。稼ぐ仕事の引き出しを多数持っていることが、プロジェクトゆうあいの特徴である。



ゆうあいビル1階で働くスタッフ



ゆうあいビル屋上での親睦会



恒例の春のお花見

困難を抱える若者支援事業（2012年度～）

◎古書店での販売による若者支援

2014年度、島根県の「子ども・若者支援事業」の採択を受けて、「困難を抱える若者」が仕事の訓練として携わる枠組みづくりを開始した。白潟本町のスティックビル6階に松江市青少年支援センターがあり、当センターから該当する若者の紹介を受けるとともに、センターから徒歩3分ほどの距離にある白潟本町商店街内のNPO法人まつえ・まちづくり塾事務所半分を借り受け、以前より取り組んでいる古本事業をさらに発展させ、従来からのネット販売に加え、直接販売のできる古書店として運営を開始した。ひきこもり等、社会生活面で難しい面を多く抱える若者8名に対して午前中の時間帯に、書棚の整理や本のクリーニング、販売員として仕事の役割を与え、生活リズムをとりもどしていくとともに、一般就労に向けた作業訓練を行っている。また、個別のカウンセリングを行い、将来に向けての相談の窓口となっている。



「本町堂」の玄関まわり



本町堂でミーティングをする若者



若者支援に取り組む大田のNPOを視察

■メッセージ

岡将男 NPO法人公共の交通ラクダ会長

1998年、岡山で開始した「市民によるバスマップづくり」の運動に、松江のバスマップが参加したことを契機として、2003年「全国バスマップサミット」が開催されることになった。全国的にバス電車の公共交通の存廃問題が、我々一般市民の生活を脅かす事態が顕在化する直前であり、松江の呼びかけで始まったサミットメンバーが中心となり、2010年「バスマップの底力」が刊行、バスマップや情報発信の技術集積が図られ、全国ネットワークが形成されて、これが昨年11月の「交通政策基本法」制定に一役買ったのだということは、もっと知られてもいい。

全国100団体にもなった「交通まちづくり市民運動」のなかで、2004年にいち早くNPO法人化され、2005年に松江で第3回バスマップサミットを開催し、広範なまちづくり運動と連携しながら、行政とも程よい距離感を保ちながら活動してきたプロジェクトゆうあいの活動は、我々の運動の中で際立って確実性が高く先進的であると評価される。10年という節目をお祝いし、さらに「継続は力」と、さらなる展開を期待している。



公共交通を使いやすくする(2004年度~)

路線バスを使おうと思っても、どこをどうバスが走っているか分からない、という多くの声にこたえ、情報提供や啓発の面から公共交通を利用しやすくするという事業である。毎年発行するどこでもバスブック松江版の発行をはじめ、県内自治体のバスブック制作、観光版バスブック・バスマップ、ネットでの情報発信、バスマップすどろく、バス停クリーンアップなど多彩であり、全国の市民団体との交流も積極的に図っている。

◎どこでもバスブックシリーズ(2004年度~)

どこでもバスブック松江版は、2001年に島根大学の学生グループが制作発行していたものをプロジェクトゆうあい引き継いだ事業であり、現在に至るまで毎年度1万部、自主発行を重ねており、バスブックの愛用者も多い。広告収入と販売収入、寄付金によって製作費を捻出している。バスブック情報をベースにしてネット版「どこでもバス.NET 松江」サイトを構築、自主サイトとして運用している。また、松江版のように毎年ではないが、出雲版、安来版、江津版バスブック制作にも携わっている。



どこでもバスブック松江版



どこでもバスブック安来版



どこでもバス.NET松江サイト

◎観光地への路線バスの情報提供(2006年度~)

島根、鳥取の主要な観光スポットにアクセスするための路線バス、鉄道の情報を小冊子「どこでもバスブック島根旅案内」「山陰文化観光圏バス・鉄道の旅」として制作、発行している。2013年度からは安来・松江・出雲エリアに絞ってA3版1枚に編集した「縁結びどこでもバスマップ」を開発し、観光案内所や宿泊施設等を通じて無料配布。これらの情報をウェブサイト「どこでもバスネット島根旅案内」を通じてネットからの情報発信も行っている。



山陰文化観光圏バス・鉄道の旅



縁結びどこでもバスマップ

路線検索	1220 (14:10発 - 16:40着)
おおすすめの観光スポット	松江駅 13:22発
観光入りモビルプラン	松江駅 13:22発
島根県コラム	松江駅 13:22発
リンク集	松江駅 13:22発
お問合せ	松江駅 13:22発
トップ	松江駅 13:22発

どこでもバスネット島根旅案内

◎楽しいバスの啓発活動（2008年度～）

2011年度に、松江のバス路線をもとにしたすごろく「バスマップすごろく松江版」を、さらに2012年度には島根県内のバス・鉄道路線をもとにした「しまねっこ電鉄 ～バスマップすごろく島根版～」を開発、商品化し松江市内の書店や観光施設等を通じて販売を行っている。これらのすごろくを3m×4mの大きさに拡大した「巨大バスマップすごろく」を制作、バスまつりや、市民活動フェスタなどのイベントに活用し、子どもたちに人気となっている。2008年度にはバスの乗り継ぎイベントも実施している。

◎バス停の情報を美しく、分かりやすくする（2010年度～）

2010年度に国土交通省中国運輸局のモデル事業の採択を受けて、松江駅前のバス路線総合サインの整備に取り組み、その後も路線改定にともなうメンテナンスに携わっている。一般のバス停については2012年度より「バス停クリーンアップ事業」に取り組んでいる。バス停のボード上に同じ大きさの耐水性シールをはりかえ、見栄えを一新させるというアイデアである。ボードには時刻表以外に、人権啓発ポスターや園山俊二氏のイラスト、バス路線を表示している。現在松江市内では18のバス停がこの取り組みによってリニューアルされている。



バスマップすごろく松江版



巨大バスマップすごろく
「しまねっこ電鉄」



松江駅前の総合バスサイン



バス停クリーンアップ

◎全国バスマップ市民団体との交流（2004年度～）

松江の「どこでもバスブック」のように、その地域のバスの路線、時刻情報を整理してマップや冊子、ネットを通じて情報発信するという取り組みが、全国各地の市民団体によって行われている。2003年に岡山ではじまった「全国バスマップサミット」は、2005年に松江において第3回のサミットとして開催され、全国16の県からあわせて150名近い参加があった。その後もバスマップサミットは毎年各地で実施され、ゆうあいからも毎年参加している。また、バスマップサミット実行委員会の編著による「バスマップの底力」という本も2010年度に出版された。



全国バスマップサミット in 松江



バスマップの底力



JCOMM デザイン賞を受賞

まちづくり・NPOのネットワーク(2006年度～)

まちづくり支援事業として、公共施設を計画する際の市民ワークショップの運営、商店街活性化計画などの委託事業に取り組んでいる。また松江市の主催する「松江武者行列」の企画運営の支援に2010年度より取り組むほか、松江市市民活動フェスタなど様々な地域イベントへも積極的に参画している。その一方、島根県内のNPOをネットワークする島根NPO連絡協議会、松江のNPOの連携組織である松江NPOネットワークの設立や運営に大きな役割を果たし、「新しい公共」の気運が盛り上がる中、東日本大震災を支援する協議会、買い物弱者を支援する協議会にも参画している。

◎まちづくりワークショップの企画運営(2007年度～)

2007年にプロジェクトゆうあい、まちづくりのコンサルティングを行う株式会社計画技術研究所の「まちづくり事業」の移管を受け、以降、地元のコンサルタント会社や建築設計事務所と連携し出雲市駅前の目抜き通り、神門通りの整備計画、安来市庁、海士町の中学校改修計画、京都市の区役所庁舎計画などへの市民参画ワークショップの企画運営に携わった。2010年度には浜田市の中心商店街を活性化させるための総合的な計画には東京の株式会社シーネットワークと連携して取り組んでいる。



神門通りの道づくり計画ワークショップ



京都市区役所庁舎計画のワークショップ運営



浜田での商店街活性化ワークショップ

◎松江武者行列の企画運営支援(2010年度～)

2010年度より、松江市観光協会と連携して、松江松江武者行列の企画運営支援を行っている。観光協会と行列の企画担当である京都造形大の間に立って、行列の隊列の検討や、参加者の管理はもとより、練習会の段取り、小物づくりのワークショップ等の支援、アンケートのとりまとめ等を担っている。また、観光協会や、行政の担当者が年度によって入れ替わりがある中、運営ノウハウがプロジェクトゆうあいに蓄積され、頼られる立場となっている。



2014年春の武者行列



武者行列の役柄選考会



武者行列の練習

◎タウンプラザしまねの運営・島根の中間支援組織（2007年度～2009年度）

島根県市町村事務組合の委託を受けて、松江市殿町にあるタウンプラザしまね（島根県市町村振興センター）の1,2階フロアを地域づくりに活用するとともに、島根県内の地域づくりを中間支援組織として支援する事業。株式会社ブランドゥ、NPO法人まつえ・まちづくり塾、NPO法人歴史文化ネットワークもくもくの3社とコンソーシアムを組み、プロジェクトゆうあいとしては情報発信事業、地域づくりを支援する助成事業などを担当した。なお、本事業は2007年から3年間の事業期間であり、プロジェクトゆうあいの事務所もこの事業採択を受けてタウンプラザ2階に移転したが、本事業の終了によって事務所も再度移転することになった。

◎島根 NPO 連絡協議会・松江 NPO ネットワーク（2006 年度～）

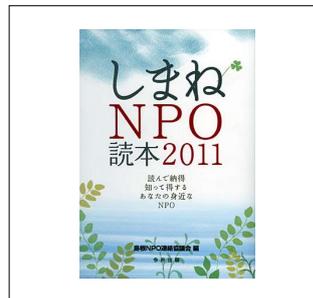
2006 年度より、島根県内の NPO をネットワークする任意団体「島根 NPO 連絡協議会」の設立、運営に携わってきた。同協議会では毎年2回の情報交換会を県内各地で開催しているほか、行政への要望書の提出や、2010 年度には県内の NPO を紹介する「島根 NPO 読本」制作発行などに取り組んでいる。設立から2012 年度までプロジェクトゆうあいの田中が事務局を、2013 年度からは三輪が当団体の代表を担っている。一方、2012 年度には松江の NPO を結ぶ「松江 NPO ネットワーク」が設立され、同団体の監事を田中が担っている。また、地域密着型の活動として石橋町商店街のイベントにも参加している。



タウンプラザしまね外観



タウンプラザしまねの地域づくりイベント



NPO 読本



島根 NPO 連絡協議会の情報交換会

◎新しい公共づくりに関わる官民連携の取り組み（2011年度～）

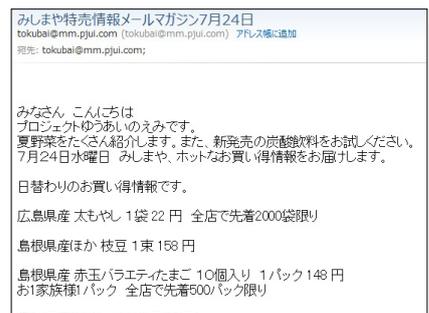
2011 年度より「新しい公共の場づくり」事業が全国的に実施されたが、この動きの中で、東日本大震災の被災地、被災者を支援する組織として「東日本大震災 松江・島根支援協議会」が官民の組織によって設立された。構成メンバーとして島根 NPO 連絡協議会が参画、その事務局としてプロジェクトゆうあいも奔走した。また、買い物弱者を支援する「ごようきき三河屋協議会」にも別途参画。プロジェクトゆうあいでは視覚障がい者にも買い物情報が伝わるよう、スーパーみしまやの商品情報メールマガジン発行や、三河屋デイズ制作などを担当した。



障がい児の絵画展を被災地仙台で開催



益田にて防災を考えるシンポを企画



みしまや特売メールマガジンの発行

循環型社会をつくる(2009年度～)

循環型社会をつくる、つまりリサイクルを推進する事業として、その対象として廃天ぷら油、そして古本に取り組んでいる。天ぷら油に関しては油を回収しBDF(バイオディーゼルフュエル)を精製、地元の一畑バスの燃料とするBDF事業から、廃天ぷら油を車の廃オイルとミックスさせるバイオ再生重油事業へと移行している。一方2012年より始めた、古本リサイクル事業については、プロジェクトゆうあいの障がい者就労支援事業と密接にリンクしながらネット販売、店頭販売、古本店の開店へと事業を着実に拡大している。

◎ BDFバス事業(2009年度～2010年度)

バスブック事業に携わる中、2009年に一畑バスより「BDFのバスを走らせたいので、その協力をしてほしい」と声をかけられたのがきっかけとなり、経済産業省の補助事業を受け、福祉事業所と連携して地域で天ぷら油を回収し、BDFを精製、実際に一畑バスの法吉線に燃料を活用する取り組みを行った。その際、スーパーマーケットに個人から油を回収するための装置「油ーコ」を開発した。翌年度はBDF精製装置を積載した車で世界一周を果たした冒険家、山田周生氏を招き益田、松江、米子を横断してもらいながら、各都市の小学校で子どもたちに廃天ぷら油リサイクルについての講演をしていただいた。残念ながらこの年に一畑バスの方でBDFバスの運行とりやめが決まり、同時に廃天ぷら油の回収も終了となった。



廃油を回収し BDF バスを運行



BDF カーの冒険家山田周生氏を招き講演



スーパーに廃天ぷら油回収ボックスを設置

◎ バイオ再生重油事業(2013年度～)

2013年度より出雲市において車の廃オイルリサイクルに取り組む山陰興業株式会社、東京に拠点を持つ全国オイルリサイクル協同組合と連携してバイオ再生重油事業に取り組みを開始した。バイオ再生重油は、車の廃オイルと天ぷら油をミックスさせることで、重油と同様の性質をもつ再生燃料である。プロジェクトゆうあいでは以前のBDF事業の実績を見込まれて、廃天ぷら油回収の体制、仕組みづくりを担うこととなり、2014年6月より、実際に松江市内の飲食事業者から油の回収を開始している。なお、BDF事業と違うのは、回収作業そのものをプロジェクトゆうあいの障がい者就労支援事業の一環として行うようになった点である。



飲食店での油の回収



バイオ再生重油プラント



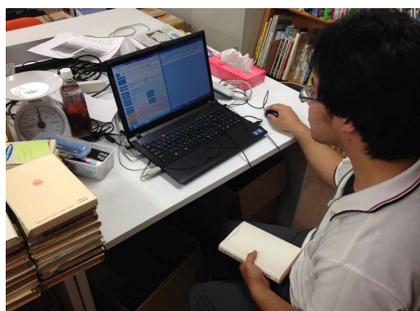
バイオ再生重油の推進会議

◎古本のリサイクル (U-BOOK) 事業 (2012年度～)

2012年5月にスタートした障がい者就労継続支援事業にあわせ、様々な障がいのあるスタッフの作業メニューとなるよう、古本のリサイクル (U-BOOK) 事業に取り組みを開始した。東京、八王子のいちょう企画が取り組んでいる事業モデルを導入し、本は地域のみなさんから寄付していただき、いただいた本をネットのamazonに出品するというのがおおよその像である。そのため、本をストックするための膨大な書庫スペースが必要であり、北堀のゆうあいビル3階を活用しているほか、松江市内の福祉事業所ネットワーク NPO 法人だんだんネの田町の倉庫をお借りしている。ゆうあいでも働く障がいのあるスタッフには、足が不自由な方、精神的な障がいを抱えている方など様々であるが、ネットへのパソコン入力や、本のクリーニングといった作業はとてもマッチしていると言える。

また、ネット販売以外にも、地元スーパーチェーンの「みしまや」と連携して、店内に100円本棚を設置させていただいたり、島根県庁の1階での福祉ショップ販売スペースにおいて、定期的に販売を行っている。お隣の城北公民館さんと連携し、「ブックカフェ」というイベントにも毎月出店している。

さらに、2014年7月には、白潟本町商店街内にあるNPO法人まつえ・まちづくり塾の一角をお借りし、古本店「本町堂」を開店。単行本、マンガ本を中心にとりそろえて直接販売を行っている。古本の寄付は、直接ご自宅に向う場合と、持ち込んでいただくケースと半々程度であるが、合計すると月平均で1000～2000冊もの本をいただいております。2014年8月時点、寄付受け入れを開始して2年4カ月の合計で約30000冊を超える本の寄贈を受けている。個人からの寄付のほか、中国労働金庫を通じた連合しまねさんからの寄付も大きな割合を占めるようになってきている。



古本のネットへの入力作業の様子



だんだんネ事務所の古本ストックスペース



スーパーみしまやの100円本棚



島根県庁1階での出張古本販売



城北公民館のモーニングブックカフェ



白潟本町の古本屋「本町堂」

情報化を推進する(2005年度～)

プロジェクトゆうあい設立前、三輪を代表とする市民団体「プロジェクト23」が市民レベルで島根の情報化を推進してきた経緯がある。この流れを受けて、ネットを通じた情報化を推進する取り組みとして、「インターネット安全教室」の開催、視覚障がい者をはじめとして障がい者のある人にも見やすいホームページづくりを広める「ウェブアクセシビリティ推進事業」、障がいのある人が、IT機器を活用することで生活の幅を広げるための啓発事業に取り組んでいるほか、外部から依頼を受けてホームページの制作を行っている。また、プロジェクトゆうあいの独自情報発信にも力を入れている。法人のメインホームページ、メールマガジンのほか、自主運用するサイトも多数ある。

◎インターネット安全教室(2005年度～)

インターネットを利用する人がウィルスに感染しないよう、あるいはネット通じた詐欺などに巻き込まれないようにネットを使う一般市民に向けた安全教室をNPO法人日本ネットワークセキュリティ協会(JNSA)と連携し、主に松江市内を会場として定期的に開催している。これらの取り組みを同NPO法人に評価をいただき2012年度JNSA賞特別賞を受賞した。



インターネット安全教室チラシ



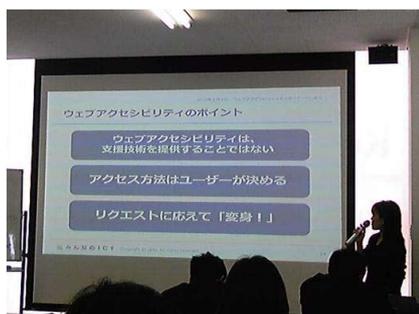
JNSA 特別賞の受賞



インターネット安全教室講習の様子

◎ウェブアクセシビリティの推進(2012年度～)

見えにくい人は、白黒の反転や文字拡大などの機能を用いて、見えない人は、音声読み上げソフトを用い、文章を合成音声にしてホームページの内容を見ている(聞いている)。このような中、2010年度にはNPO法人みんなのICTより講師を招き全国のバリアフリー観光情報サイトのウェブアクセシビリティ診断を実施、さらに2012年度に島根県協働事業の採択を受け技術者向け、自治体、事業者向けのウェブアクセシビリティ研修、自治体をはじめとした公的機関、企業などが運用するウェブサイトのアクセシビリティ診断に取り組んでいる。



ウェブアクセシビリティセミナーを主催



ウェブアクセシビリティ診断書を作成



白黒反転画面でPCを見やすくする

◎障がい者 IT 機器利活用の推進 (2014 年度～)

障がいのある人が IT 機器、ソフトを活用することで、生活の幅を広げ、就労に結びつくことも可能である。また学齢期の子どもには、学習面、日常生活を支援する上でも有効である。プロジェクトゆうあいでは、就労支援事業、放課後等デイサービス事業を通じて、障がいのある成人、児童の双方に直接的な関わりがあり、これらの人を支援する上で極めて有効である。この取り組みを法人内のノウハウにとどめるのではなく、幅広く県内の障がい者、あるいは障がい者を支援する人、組織に対して情報提供し、直接的なアドバイスができるよう、2014 年度に県協働実践事業の採択を受けて、セミナーの開催等を実施している。

◎ホームページの制作 (2006 年度～)

城北公民館、つみっく、トラベルフレンズとっとりなど外部の団体、法人からの依頼を受けてホームページの制作を行っている。ホームページの制作にあたっては、白黒反転や音声読み上げに問題がないなどのウェブアクセシビリティに配慮するほか、既存の汎用システムを活用するなど低コストでのサイト構築、低コストでの運用ができるようにしている。



障がい児・者のための IT 機器利活用セミナー



パソコンで仕事の幅を広げるスタッフ



城北公民館ホームページ



トラベルフレンズとっとりホームページ

◎プロジェクトゆうあいの情報発信 (2004 年度～)

プロジェクトゆうあいの法人全体像をメインホームページにて、日々の活動内容については公式ブログ、フェイスブック、メールマガジンを通じて情報発信している。また、2012 年度より3カ月に1回のペースでA3版両面カラーの「ゆうあいレポート」を発行。古本の寄付者や、プロジェクトゆうあい会員、仕事関係者、キッズスペースゆうあいの利用者等に配布しており、視覚障がい者にも見ることができるよう、テキスト版がネットでダウンロードできるようにしている。また、視覚障がい者に便利な様々なグッズ、ソフトを動画にて紹介する「えみスマイル」を 2011 年度より続けている。



プロジェクトゆうあい公式ホームページ



ゆうあいレポート



えみスマイル / YouTube にて配信中

■ 受賞歴

- 2014年 第4回地域再生大賞 中四国ブロック賞
- 2013年 日本ネットワークセキュリティ協会 JNSA 賞
- 2012年 日本モビリティマネジメント会議 JCOMM デザイン賞
- 2011年 国土交通省中国運輸局表彰
- 2008年 内閣府バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰
- 2007年 松江市社会福祉大会表彰状
- 2006年 総務省中国総合通信局表彰

■ 拠点住所

- ◎特定非営利活動法人プロジェクトゆうあい本部／
第1キッズスペースゆうあい／就労支援本部
松江市北堀町 35-14
- ◎第2キッズスペースゆうあい
松江市北堀町 59-2
- ◎第3キッズスペースゆうあい
松江市西川津 1408-7
- ◎私設図書館曾田文庫 (障がい者就労支援)
松江市雑賀町 286
- ◎本町堂 (若者支援／障がい者就労支援)
松江市白濁本町 74

